

商店街と大学と家庭とをつなぐ

—大阪・駒川商店街内子育て支援スペース ‘JONANこどもひろば Komaクル’のチャレンジ—

弘 田 陽 介

はじめに

本稿は、弘田が主担当となり運営している駒川商店街内子育て支援スペース ‘JONANこどもひろば Komaクル’ の設立の契機、運営、実施内容、そしてその後の展開までを報告するものである。このスペースは、駒川商店街に買い物にやってくる保護者と子どもが、本学スタッフ、アーティスト、学生、学園幼稚園教員と一緒に遊び、相互交流を図るとともに、教員が保護者に対して育児相談の窓口となる子育て支援事業である。元来は、大阪府商店街課題解決プラン事業コンテストで、本学総合保育学科企画の「子どもと保護者を包括的に支える商店街内子育て拠点<JONANこどもひろば>づくり事業」が優秀企画として採択されたことが契機で、2014年10月より2015年2月末まで大阪府委託事業として具体化した。委託終了期間以後、同年3月より城南学園が、独自事業として継続運営している。

スペースの設立以来、KOMAクルは、「子どもと気軽に立ち寄れる場がほしい」、「子育ての悩みを聞いてほしい」といった地域で生活する保護者の要望に応える拠点として、多様なニーズに応える子育て応援の場所として、また本学学生が子どもや保護者と実地で触れ合える実習現場として機能している。商店街側は子育て世代を商店街に呼び込むことができ、また学校側は課外実践の場と



写真1 子育て支援スペース‘JONANこどもひろば Komaクル’外観

して活用している。城南学園からほど近い場所にあり、この事業以外にも様々な交流を行なっている駒川商店街と本学との互惠関係を示す象徴的な場所であり、子どもの遊ぶ声は地域の活性化の一翼を担っている。2015年末の時点では、毎週月・水・金の10時から14時まで開場し、担当スタッフが子どもや保護者と一緒に遊んだり、作品を作ることを行なっている。また不定期で学生主体や本学教員および学園幼稚園の教員によるイベントも企画され、好評を博している。

以下は、事業の概要、内容、実施所感をまとめている。本稿は、大阪府委託事業の終了にあたって、大阪府に提出した報告書を元に行なっているが、大幅に原稿に手を入れ、データなども最新のものとしている。

1 JONAN こどもひろば Komaクル概要

駒川商店街内子育て支援スペース「JONAN こどもひろば Komaクル」（以下、Komaクルと略）事業は、2014年7月実施の大阪府商店街課題解決プラン事業コンテストで、総合保育学科企画の「子どもと保護者を包括的に支える商店街内子育て拠点＜JONAN こどもひろば＞づくり事業」が優秀企画として採択されたことが契機でスタートした。以下がその採択時に提案した事業概要となる。

「本事業は、駒川商店街内の空き店舗において、買い物にやってくる保護者と子どもが、保育者（大学教員・学生、地域の幼稚園教員）と一緒に遊び、相互交流を図るとともに、教員が保護者に対して育児相談の窓口となる子育て支援事業である。2014年7～8月を準備・調査期間として、その後の9月から翌年2月までの間、段階的に回数を増やし、合計30回のサービスを行っていく。」

当初応募時は、いくつかの空き店舗を一日貸して転々とする予定であった。しかし、商店街および地元の不動産業者の協力により、よい賃貸物件にめぐり合い、そこを常設のスペースとして開設することに決まった。

業務場所は右の通りであった。

大阪市東住吉区駒川5-12-9

駒川商店街・駅前通り商店会内店舗
（近鉄南大阪線「針中野駅」から徒歩2分）。ただし2015年12月より駒川4-9-15に移転した。

駒川商店街は、大阪市南部を代表

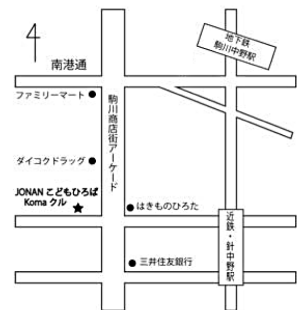


図1 Komaクルの位置
(2015年11月まで)



図2 駒川商店街と城南学園を含む地図

する商店街であり、天神橋筋商店街や千林商店街と並び、大阪三大商店街と言われている。朝日放送の「探偵ナイトスクープ」など大阪の庶民を取材する番組では、よくロケが行なわれる。全長730m（東西190m、南北540m）の十字形で、昭和初期に中野市場を中心として商店が集まっていたが、戦後から高度経済成長期にかけて駒川商店街へ発展した。南から、鷹宮南通り商店会、オレンジ通り商店会、駅前通り商店会、コスモス通り商店会、みなみ通り商店会、中央通り商店会、センター通り商店会、ギンザ通り商店会、日の出通り商店会、昭和通り商店会の10の商店会で構成されている。



図3 コマクルのシンボルマーク

また、大阪城南女子短期大学のある湯里地区から駒川商店街までは徒歩15分、地域路線バスで5分の距離である。2014年7月のプラン採択から10月までを準備期間とした。空き店舗の名称は当初「JONAN子どもひろば」であったが、開場にあたり、愛称となる「KOMAクル」(Komaクル)を付加した。またマークとして、真ん中は城南学園のマスコット・「城南うさぎ」、両脇は駒川商店街のマスコット「コマちゃんガワちゃん」を載せた、メダル状のものを考案した。

2 内容

(1) 事業内容

本事業は、駒川商店街内の空き店舗を活用して、買い物に来られる保護者と子どもを対象に、スタッフ（大学教員・学生、地域の幼稚園教員）と一緒に遊び、相互交流を図るとともに、教員による育児相談等の実施並びに、地域の関係団体・公的機関の協力を得て、子育て世代の家庭生活に関わる様々な問題に対する相談会等を実施することにより、子育て世代の家庭を重層的に支援する事業である。細目は以下3点となる。

① 商店街における地域の子育て支援

「子どもと気軽に立ち寄れる場がほしい」、「子育ての悩みを聞いてほしい」といった地域で生活する保護者の要望に応える拠点を駒川という大きな商店街の中につくる。

本事業により、乳幼児をもつ保護者が地域のつながりの中で子育てをしているという安心感をもち、負担感を軽減させる。また、商店街には、子育て中の世代を顧客として新たに呼び込む。

② 多様なニーズに応える子育て支援

大学の専門教員、幼稚園教諭の協力のもと、特別支援が必要な子どもとその家族の相互交流や、子育てスキルの獲得、参加者同士の学びあいをサポートできることが本事業の特色のひとつである。

また、地域の関係団体・公的機関の協力を得て、子育て世代の家庭や生活に関わる様々な問題事象の相談会も随時開催していく。このことにより、多様なニーズをもつ子育て世代の家庭を重層的に支えていくことができる。

【実施事業内容】

- ア 城南学園及び他の機関・大学などの専門家による各種相談会の開催・発達相談
- イ 地域の幼稚園の協力による子育て相談会
- ウ 駒川商店街振興組合ならびに東住吉区役所・同区社会福祉協議会・同区の医師会、歯科医師会による健康・医療相談会（この事業は駒川商店街振興組合が主体として行なったものであるため、本稿のデータなどには含めていない。）

③ 保育実践者や保育環境のよりよい養成

本事業の主體的な運営者である大阪城南女子短期大学の学生は、今後の幼稚園教育・保育所保育を担っていく人材であり、本事業を通して、保護者と子どもの生活実態に即したニーズを受け止め、今後地域において保育や幼児教育を担うスキルを身につけることができると考えられる。

そのことは、現在、不足している保育者をより現場に適った形で養成する有効な手段となる。また、系列の城南学園幼稚園にもこの事業実施の応援を依頼するが、このことによって地域の保護者と幼稚園のよりよいマッチングが可能となる。

(2) 実施概要

2014年9～10月中旬を準備・調査期間として、大阪府委託事業としては10月下旬から翌年2月末までの間、午前10時から午後2時までの部（以下、表中「午前午後の部」）、ならびに夕方の部に分けて、合計83回の事業を行なった。

また、2015年3月以降は、城南学園が運営し、同年11月末までに、午前10時から午後2時までの部（以下、表中「午前午後の部」）、ならびに夕方の部に分けて、合計131回の事業を行なった。

なおサービス中の子どもの安全は万全の注意を払っているが、万が一に備えて、損保ジャパン日本興亜の「リクリエーション補償プラン」に加入した。その後、2015年11月末日まで一切の事故やトラブル、クレームはない。

【データ】

1) 2月末までの登録人数（初回参加時に氏名、住所などを登録してもらっている。）

	保護者	子ども	合計登録者数
登録人数（全日程で）	164	194	358

2) 3月～11月末までの登録人数

	保護者	子ども	合計登録者数
登録人数（全日程で）	136	186	322

3) 2月末までの参加者数（延べ人数）

午前午後の部（主に10：00～14：00） 71回開催			夕方の部（主に16：30～18：00） 12回開催			全時間
保護者合計	子ども合計	合計	保護者合計	子ども合計	合計	全参加者数
480	587	1067	38	46	84	1151

4) 3月～11月末までの参加者数（延べ人数）

午前午後の部（主に10：00～14：00） 126回開催			夕方の部（主に16：30～18：00） 5回開催			全時間
保護者合計	子ども合計	合計	保護者合計	子ども合計	合計	全参加者数
1291	1505	2796	12	15	27	2823

5) 月別事業回数と参加者数

月別実施回数 (午前10時から午後2時の部のみ)	保護者	子ども	一回あたり 平均保護者数	
2014年10月	6回	44	71	7.3
11月	21回	93	112	4.4
12月	17回	142	169	8.4
2015年1月	12回	87	108	7.3
2月	15回	114	127	8.1
3月	16回	180	228	11.3
4月	17回	149	185	8.8
5月	14回	127	137	9.1
6月	17回	178	199	10.4
7月	18回	147	166	8.2

8月	10回	126	156	12.6
9月	11回	142	159	12.9
10月	13回	139	154	10.7
11月	10回	103	121	10.3

2014年10月～2015年2月末までの平均来場保護者数	6.8人	2015年3月～2015年11月末までの平均来場保護者数	10.3
------------------------------	------	------------------------------	------

(3) 事業当初期待していた効果とその成果

本事業は大阪城南女子短期大学の教員・学生との連携による産学連携事業であるため、地域の子育てニーズに応えるだけでなく、商店街という地域と、同短期大学の両方に人を呼び込み、活性化を促す効果があると考え、この事業を企画立案した。短期大学側はサービスラーニングの一環として行うため、参加者の負担なく事業遂行できる。本事業によって教育実践の枠組みができれば、今後、継続的な運用とさらなる事業の多様化・拡充が期待できる。

成果としては、上記(2)の「3) 月別事業回数と参加者数」で示したように、10月、11月開催時は不安定であるが、12月以降平均して、保護者と子どもを集めていることから、事業として一定の好評をもって迎えられていることがわかる。また、保護者連れの通行量調査を10月と2月に実施している。10月20日(月)の10:00～14:00(晴)では、200名の乳幼児連れの保護者をカウントしているが、2月26日(木)の10:00～14:00(雨)では93名であった。2回の計測だけで結論を下すことは拙速であるが、この数値は10月の過ごしやすい気候時には子ども連れで商店街に出てきやすいこと、そして2月の寒い中、しかも雨が降った日には子ども連れでの買い物に難しいことを意味しているだろう。このような2月の天候でも、室内で遊べるKomaクルへの平均来場者は特に減っているとは思われず、子ども連れの保護者の一定の「避難所」的な役割を果たしていることがわかる。また、2015年2月末までの一回当りの平均保護者来場者数6.8人と比べ、城南学園が運営に着手した3月以降は、平均10.3人と人気を高めていることがわかる。2014年の秋から来ていた保護者の方々が定着したことと、新たに来場した方も継続的に来てくれていることがこの人気の要因であると思われる。

(4) 実施スケジュール

日 程	事 業 項 目
2014年9月～10月中旬	・ 準備期間（機材の納入、店舗の改装、教員・学生のオリエンテーション） ・ 地元調整、スタッフ選定
2014年10月下旬～ 2015年11月末	・ 事業実施（主に平日10：00～14：00。ただし商店街休みの火曜は除く。また平日夕方および日曜・祝日は不定期にイベントを開催した。）

(5) 実施スタッフおよびプログラム

- ・ Komaクルスタッフ（非常勤職員）

本事業のメインとなる平日午前から午後のプログラムの担当スタッフである。（ ）にはその専門もしくは職業を記している。

赤石恵利嘉（造形・版画）、三好希美子（造形・服飾）、石田美奈子（絵本読み）、弘田みな子（大学講師）、上門三代（健康相談）、岩見江美（保育士）

- ・ 以下Komaクルスタッフによるプログラム（平日10時から14時）

絵本読み聞かせ会	絵本の読み聞かせを主とした保育サービス
一緒にものづくり会（名称は「Komaクル・アート」などで実施）	造形制作（絵画や手芸）を主とした保育サービス
からだで遊ぼう	幼児体育・ダンスを主とした保育サービス



写真2 絵本読み聞かせ会の様子



写真3 一緒にものづくり会の様子



写真4 製作物・ひなまつりの日

・大阪城南女子短期大学 教員

西川仁志(学長)、松本敦(総合保育学科学科長)、弘田陽介(講師・本事業主担)、油井宏隆(教授)、魚住美智子(教授)、村上佑介(講師)

*上記の教員は、主に監督者およびアーティストとして事業に参加した。

・城南学園幼稚園 教員

太田友子(園長)、毛受葉月(教諭、幼稚園内Komaクル担当)、中田歩(以下、教諭)、上田祐子、並木里依子、雪本静、左川祐里、谷歩美、西原健太、林あゆみ、吉岡咲

*上記の幼稚園の教員は、夕方プログラムおよび幼稚園夏休み午前プログラム実施担当者として事業に参加した。

・他の不定期プログラム

城南の学生と遊ぼう	本学学生主体の保育プログラム・2014年10月～2015年1月、および2015年6月～7月の夕方実施
城南学園幼稚園の先生たちと遊ぼう	学園幼稚園の先生による保育プログラム・10月～1月の夕方、および夏休み期間午前中実施
保健師さんたちとの相談会・子育て中のお母さんへの健康体操*	東住吉区+近隣の中野地域包括支援センターによる育児中の母親を対象にした相談プログラム
地域のお医者さん・歯医者さんとの相談会*	東住吉区医師会・歯科医師会の協力による母子健康相談プログラム
東住吉区役所保健所・中野地域包括支援センターによる高齢者向け講座**	左の団体による高齢者向け、ヘルスアップ講座

*のプログラムは、通常の10～14時のプログラムに併設の形で実施

**のプログラムは、毎月第2、3、4火曜に実施(東住吉区役所保健所実施のため記録なし)



写真5、6 「城南の学生と遊ぼう」の様子



写真7、8 「城南学園幼稚園の先生たちと遊ぼう」の様子



写真9 「地域のお医者さん・
歯医者さんとの相談会」の様子

(6) 広報関係

当初、サンケイリビング誌などに広告を出したが、以後、新聞、TV取材などがあり、本学から積極的な広報展開は行なわなかった。にもかかわらず、人気が続くし、増幅させられたのは、地域の口コミの力だと考えられる。以下に広報関係の資料を掲載する。

★子どもと保護者が 気軽に立ち寄れ
いっしょに遊んで 休憩していただける子育て支援スペース

JONAN こどもひろば

無料
予約不要
入退場自由

★城南短大の専門家と話せる「子育てサポートカフェ」
★地域の方も参加できる健康づくり「ヘルスケアサロン」
★お子様と保護者がいっしょに楽しむアート体験「キッズ・ミート・アート」

月・金の午前は定期的にお子さんと保護者の方がアートを楽しんでいただく時間を設け、
水・木・土・日・祝には不定期に楽しいイベントを開催します。

予定は、JONAN こどもひろば HP もしくはfacebook ページでご確認ください。

ホームページ <http://jonankinderplatz.tumblr.com/>
facebook ページ <https://www.facebook.com/komakuru>



対象：0歳から6歳までの未就園児と保護者の方
保護者の方がお子様と一緒に参加いただくことが条件となります。＊託児サービスではございません。

大阪城南女子短期大学
担当：弘田 電話 06-6702-5138

★「JONAN こどもひろば」は大阪府商店街課題解決プランコンテストで採択され、
大阪府からの委託を受けて、大阪城南女子短期大学が実施するものです。

写真10 広告（サンケイリビング誌2014年11月22日発行号）

- ・ホームページ（本学現代生活学科ライフデザインコースの協力を得て、tumblr.で製作）
<http://jonankinderplatz.tumblr.com/> 次頁の写真11
- ・fbページ
<https://www.facebook.com/komakuru> 次頁の写真12



写真11 ホームページ



写真12 fb (フェイスブック) ページ

・メディア掲載



写真13 大阪日日新聞 (2014年10月23日朝刊)



写真14 産経新聞 (2015年2月5日朝刊・地域面)



写真15 J: com TV関西 TODAY
(2014年12月11日) 内で特集「商店街と
大学がコラボ!“Komaクル”」

3 実施所感

以下は、弘田と、Komaクルスタッフ、そして大阪城南女子短期大学の学生とで一緒につくった「Komaクル誕生・成長の記」である。

(1) Komaクル開場までの道のり

2014年6月中旬

大阪城南女子短期大学の地域担当の教員である弘田は、かねてより懇意にしている駒川商店街振興組合常務理事の森田真規さんの経営するお好み焼き屋「花マル」を訪問。雑談の中、大阪府が商店街課題解決プランコンテストをやることを知らされる。締め切りは3日後であったが、急ごしらえで申請書を書き、応募。その後、公開プレゼンにまで駒を進めたことを知らされる。

7月16日

アウィーナ大阪にて公開プレゼン。本学二回生の西瑞穂と松本有華が登壇し、他の参加者や審査員に「若い女子学生に発表させるなんて反則や」と言われながらも、入賞。

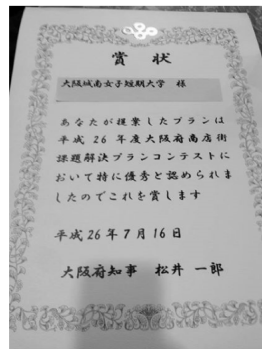


写真16、17 公開プレゼン後の取材と入賞の賞状

8月上旬～

商店街の森田さんの紹介で、元マッサージ屋さんの好立地の契約内諾を得る。当初の予定では、空き店舗を一日借りて転々とし、年度末までに週末などで40回運営する計画であった。しかし、好条件で貸してくれる不動産業者を紹介してもらい、また森田さんのおかげで常時使用できる形、つまり月借りで借りることができた。これによって、ソファや遊具などをリースなどで常設することができた。また、非常にきれいな元マッサージ屋の内装をほぼそのまま使用することができた。



写真 18、19 入居前の店舗の外観と内部の様子

8月中旬～

大阪府との契約書類を整える。地域担当の事務スタッフがいない本学では、教員がこのような書類もつくらなければならず苦勞した。

8月下旬～

場所は常設が見つかったが、スタッフ探して難航。本学教員は平常業務があるため、常駐する訳にもいかない。卒業生などをあたって、常勤のスタッフを探したが、条件に合う方がなかなか見つからない。本年はちょうど本学キャリア支援室のスタッフが入替わるなど、なかなか学校のコネクションを生かせなかった。そこで発想を変えて、複数の人で運営する方針に転換。偶然、Komaクルに来てくれた本学の卒業生で育児休業している方や、本学関係者の力を借りてスタッフをローテーションさせることで運営することになった。二人の子ども（3歳と1歳）と一緒に仕事してくれるスタッフもいる。また城南学園幼稚園の先生も夕方からの講座を運営してくれた。幼稚園の広報活動の一助にもなっている。また、学生の保護者の方も保育関係の資格をもっていたのでスタッフとして手伝ってくれた。加えて、このKomaクル開設に当たっては、東住吉区役所の方々もご協力をいただいた。同保健所保健主幹の有馬和代さんは、中野地域包括センターの方々と一緒にKomaクルのプログラムを運営してくださった。

9月上旬～10月上旬

ようやくスタッフの日程を調整し、10月から2015年1月までの予定をつくる。また店舗に掲げる看板やコンセプトのデザインでかなり頭を悩ませた。「JONAN子どもひろば」という名称はプランコンテストの時にあったが、本学・西川学長が愛称をつけるようにということで、学内でいろいろとアイデアを募集する。駒川にちなんで「KOMAポート」、「KOMAカモン」などが候補になったが、最終「KOMAクル」に落ち着く。また10月22日オープンと決める。



写真20 看板設置中の様子

10月22日

オープン！ この日の参加者は、保護者6名・子ども11名であり、周知がそれほどなされていない状態でまずまずの滑り出し。



写真21 オープン初日の様子

10月23日

地域関係者を呼び、オープニングセレモニーを行なう。

大阪府から担当の職員、東住吉区・小倉健宏区長を始めとして、関係部門の課長、駒川商店街振興組合からは名和安将理事長を始め、役員が列席。



写真22 オープニングセレモニー



写真23 本学・西川仁志学長が開場の挨拶



写真24 近隣在住の文化評論家・木津川計氏よりもお言葉をいただいた

大阪城南女子短期大学が指導・運営を行なっている「子どもミュージカル」隊も登場。2014年および2015年度は「スイッチ」という男女が入れ替わり、昔ながらの街を壊そうとする開発業者と戦うというミュージカルであったが、その劇中の舞台は、駒川商店街であった。商店街にちなんだ歌を熱唱し拍手をうける。



写真25 「子どもミュージカル」

(2) 大阪城南女子短期大学の授業とのリンク

2014年度後期の同短大・総合保育学科1年次授業「幼児教育基礎Ⅱ」、2年次授業「大阪の人と文化」・「卒業研究」の受講生はKomaクルでの実習を行なった（木曜の16時半より1時間半・合計7回）。通常、保育士資格など取得に必要な現場実習とは異なり、自分たちで子どもと一緒に遊べる時間を主体的に創造することを課題とした。また2015年度前期は、1年次授業「大阪の人と文化」では、学生が運営する子どもとの遊び会を「コマチル」として、木曜の16時半より1時間半、合計5回行なった。この1年次授業は、選択授業であったため、4名での実習となったが、それぞれ自主的に企画を持ち寄り、子どもたちと関わった。



写真26 総合保育学科2年次授業「大阪の人と文化」の様子



写真27 学生が授業のまとめとしてつくったポスター

また、弘田担当の卒業研究ゼミでKomaクル実践および調査を実施した。以下、保護者、スタッフ、商店街のお店の方に学生がインタビュー調査して、参加者・関係者の声をまとめた。（2014年12月に弘田ゼミ所属の学生・高野実央、谷口日美子、中村優花、原亜美が調査。）



写真28 卒業研究ゼミ学生による商店街での聞き取り調査の様子

来場保護者の声

「子どもが楽しそうなのでよい」、「近くで目の届くところで遊ばせることができる」、「大声を出してもよいのでいい」、「これから寒くなる季節なのでよい」と概ね好評。

保護者からの要望

「いつも学生さんがいるとよい」、「休みなくいつも開いているといい」、「子どもだけ預かってもらえると親は買い物に行けるのでよい」。これらはなかなか難しいこともあるが今後の課題である。

近くのお店の方の声

子ども服・子ども用品店は「お店に来るお客さんがKomaクルでの出来事を楽しそうに話してくれる。ぜひ続けて行ってほしい」とのこと。

お肉屋さん「前は空き店舗だったので、電気がついて明るくなっていい。買い物に来てくれるお客さんには行くように勧めている。」と言ってくれていた。

はきもの屋さん「保護者の方も積極的に参加できるイベントがあるとよいのではないか。ママ、商店街、城南とがコラボレーションできるように今後は街全体の取り組みにして行ってほしい」と展望まで語ってくれた。

Komaクルスタッフの声（各スタッフに書いていただいた）

岩見江美（保育士）

・ Komaクルで実践していたこと

子どもたちの遊びのサポートやお母さんとの情報交換、受付、案内など。

・ 子どもやお母さんと関わったエピソード、感想

人見知りのお子さんが回数を重ねるごとに笑顔になり、お話ししてくれた時は嬉しかったです。

・ お仕事全体の感想や今後の展望

お母さんたちと仲良くなり他愛もない話ことができました。私自身も子育て中なので、いい経験ができました。今後は、お母さん方が情報交換しやすい環境作りをしっかりとしていけたらと思います。

弘田みな子（大学講師、保育士）

・ Komaクルで実践していたこと

主に、自由遊びの日の保育と、保護者からの相談事への対応、および、アートのワークショップ開催日での補佐をしていました。

・子どもやお母さんと関わったエピソード、感想

「Komaクル」開設当初は、保育者がおもちゃや絵本を介して、積極的に子どもの遊びへの入り口を探して、子どもがリラックスしてすごせるよう意識していることが多かったです。それが次第に、遊び場の雰囲気ができてきて、こちらが意識的に働きかけなくとも、親子や子ども同士が遊びを始めて、保育者を遊びの一員として招き入れるような場面が見られるようになりました。(パズルや玉転がしのような1人遊びから、おままごとやお店ごっこ、スタッフや他の子どもを組み込んでの遊びへの転換。)

また、日々の保育の中で、おもちゃの配置や種類、遊びの動線などが、徐々に改善され、保育者や親子ともにスムーズに遊べるようになったと感じます。また、日を重ねるごとに、二回目以降の利用者も増え、よりスムーズに遊びの場の設定がしやすくなったように感じます。「Komaクル」の利用をきっかけに、知り合い同士になったり、育児の相談事等を話し合える相手と出会うお母さん達も多く見受けられ、地域での子育て中の親の出会いの場にもなり始めているように感じています。

・お仕事全体の感想や今後の展望

保育スタッフとして関わるなかで、各親子によって、過ごしたいスタイルや遊びの雰囲気等が違うということが実感として得られています。また、当日の自由参加のスタイルなので、事前の人数や相手の把握が難しいということがあります。そのためその日の仕事の展開が予測できない点が難しい点ではあるが、その場その場での保育のレパトリーを実践的に増やしていける機会と捉え、今後も、「自由に立ち寄れる子どもの遊び場兼お母さん達の出会いの場」として継続していけたらと思います。

赤石恵利嘉（造形・版画）

・Komaクルで実践していたこと

おえかき（水彩絵の具と筆を使って大きな紙に書いたり、クレヨンなどで、自由に書いてもらう。ぬりえペッタンなど）

工作（親子で遊んでもらえるものを作る。画用紙や身近な材料を使ったモビール飾りや簡単なおもちゃ作りなど）

・子どもやお母さんと関わったエピソード、感想

未就園児が来られるので「絵の具を使うのは初めて」「家では大きな紙に自由に書くのは難しい」という方が意外に多く「ここに来たらお絵かきができる」と来てくださる方も増え、やってよかったと思いました。また、子どもたちが夢中になってる姿が生きいきとしていて、見ていて嬉しくなりました。

・お仕事全体の感想や今後の展望

人と接するお仕事は簡単なことではないと思うこともありますが、楽しくお仕事させていただいています。いろんな年齢のお子様がかかりますが、子どもの成長はとても早く、新鮮なおどろきと刺激をうけることが多くいい経験をさせてもらっていると思います。その分こちらの準備（ワークショップの内容、来られる方と接し方など）も幅広くいろいろと対応できるように考えないといけないと思います。子どもたちに、何か残るものがある楽しい体験、をしてもらえる場を作れるよう考えていきたいと思っています。

上門三代（健康相談）

・Komaクルで実践していたこと

子どもと一緒に好奇心を伸ばせるようにいろいろな遊びをしたり、お母さんの子育て中のお話や相談を聞いたりしています。

・子どもやお母さんと関わったエピソード、感想

最初はなかなかうち解けなかった子が、今では楽しみに来てくれるようになってくれたり、また、Komaクルに来るようになって、こんなことも出来るようになったと、お母さんがお話ししてくれるとこちらも嬉しく思います。同じ年齢同士の子どもたちはお互いにより刺激になるようで、他の子ができることを自分も挑戦したいと頑張る光景をよく目にします。また、来る子どもが毎回違うことによって、同じ遊具でもその日によって違う遊びを子どもがみ出して遊んでいます。このようにお互いに刺激しあって成長しているのを感じます。

・お仕事全体の感想や今後の展望

場所が商店街だとお買い物のついでに気軽に寄って利用できるのがいいと感謝されたり、子どもと一緒に安心してお母さん同士交流や子育ての情報交換などできてとても助かると言われる事が多く、これからも子育て中のお母さんのお手伝いができればと思います。

石田美奈子（絵本読み・ライフプランアドバイザー）

・Komaクルで実践していたこと

絵本の読み聞かせを担当しています。毎週木曜日にフリー遊びの後、数冊絵本を読んでいます。来られているお子さんたちは月齢・年齢も異なりますし、家庭での絵本の関わり方によっても楽しめる本が違います。また遊び足りない子は絵本に集中できません。人数を含め、お子さんたちの様子を見ながら、絵本を選んでいきます。

一番読むのは『がたんごとん がたんごとん』です。自治体が検診などで絵本を渡すブックスタート事業でも配布されている本なので、みんなよく知っています。知っているということが安心感につながるのではと思い、一緒に楽しんでいます。

・子どもやお母さんと関わったエピソード、感想

ある3歳児のお母さんから「ここに来るようになって絵本に興味が出てきました」とおっしゃっていただきました。このお子さんは数回の参加でしたが、遊びモードのまま、なかなかじつと絵本を聞く態勢が取れなかった子です。それでも何度か参加するうちに、確かに座って楽しめるようになっていました。続けることの大切さを改めて感じたお話です。

・お仕事全体の感想や今後の展望

これからもたくさんのお子さん、お母さんが絵本の世界を楽しめるお手伝いをさせていただければと願っています。

三好希美子（造形・服飾）

・Komaクルで実践していたこと

週1日金曜日に「いっしょに作ろう!」というタイトルで主にフェルトを使用した小物を月替わりで作りました。内容は、ミニバッグ、小物入れ、クリスマスのオーナメント、フォトフレーム、ひな人形、マスコット、フラワーベースです。

・子どもやお母さんと関わったエピソード、感想

最初は、子どもが興味を持ちやすく簡単に製作できる物を考えていたのですが、中には難しかった物もあったので勉強になりました。難しい物はやめて、簡単な内容に変えていましたが、お母さん達も作るのを楽しみにしているとの声を聞き、土台作りはお母さん、貼ったり飾りつけするのは子どもという形態が定着しました。作っている時や作った物をお母さんに褒められていたり、コミュニケーションできているのが良いと思います。子どもはそれぞれ無限のアイデアを持っているので、それを見るのも楽しいです。

・お仕事全体の感想や今後の展望

Komaクルは無料で遊びに来られる場所としては魅力のある施設で働きやすい職場だと思います。お母さん達はどこでどんな子どものイベントがあるか、どこの施設が過ごし易いか等の情報交換をしています。子どもと一緒に行ってみたい!と思ってもらえるような楽しい企画を考えていきたいと思っています。

(3) 大阪府委託業務から城南学園運営へ

本事業は、大阪府委託業務としては、当初は2015年1月末までの予定であった。しかし、来場者・地域の声に応じて2月末まで委託事業期間を延長した。これは当初、運営経費として計上していた額内での延長が可能であったためであり、大阪府に契約変更の提案を行い、了承をもらった。

また2015年1月以降、このままこの事業を終了させるのは惜しいという声が利用者や商店街関係者から上がっていた。そこで、本学・西川学長および駒川商店街振興組合・名和理事長らが、本学の法人理事者と折衝を重ねた。その結果、本学の広報拠点としての機能を有するというので、学

校法人城南学園が今後期限を切らずに、事業を運営することが決定した。現在は、委託業務時の形態を保持しているが、今後は、城南学園―商店街―地域の三者が「三方良し」となるように内容面、費用面などで継続的に相談している。また新たな展開として、他大学の学生からもボランティアを受け入れたように、広い視野に立ち、地域貢献やよりよい保育者育成などを目指して、Komaクルを運営していきたいと考えている。

そして、Komaクルは2015年11月末で当初の場所より移転することになっている。移転に際しては駒川商店街振興組合より強い要請があった。というのも、同組合が補助金を得て、開設した「コマステーション」の2階が空いており、その活用策としてKomaクルの移転が求められたのである。弘田にとっても、この件は思案の種であったが、一から室内をデザインできることなどが理由で、よりよい環境を求めるとなった。城南学園側としても、家賃が安くなるというメリットがある。ただし、移転先は、その「コマステーション」の2階となり、利用者に不便をか



図4 移転前と移転先のKomaクルの位置（新住所は大阪市東住吉区駒川4-9-15）



写真29、30 移転先の外観および室内内装
(11月段階なのでまだ荷物は入っていない)

けることになる。子連れで荷物がある場合など、階段の上り下りが面倒になるが、しかし、1階にインターフォンをつけ、スタッフの助力を仰ぐことでその課題もある程度は解消できると考えている。

このように、‘JONANこどもひろば Komaクル’は、2015年12月7日より再スタートを切ることになった。さらに子育て支援の内容を充実させ、長く地域の人々に愛されるように、より一層の継続的な努力を続けていきたい。ということで、この移転を一区切りとして、本稿を終え、ひとまのまとめとしたい。



写真31 移転後のコマクル



写真32 二階入り口部に設置のベビーゲート



写真33 保護者の語らいの場もできている。



写真34 奥行きも広くなり利用しやすい

(ひろた ようすけ：大阪総合保育大学児童保育学部講師)